

## 唐津道路が全線開通

### 浜玉ICでテープカット

西九州自動車道唐津道路の二丈鹿家IC（浜玉IC）間の3.8kmが、12月12日に開通。この日は、国土交通省と（旧）二丈町、唐津市が主催する開通式が唐津市浜玉公民館で行われ、浜玉ICでテープカットが行われました。

この区間は平成17年度に着工され、唐津道路の全区間10.4kmが開通しました。この全線開通によって、沿線地域の経済活性化や観光振興など、多方面への効果が期待されます。



唐津への動脈の開通に、経済の活性化などが期待されます

## 雪降る中の「寒みそぎ」

### 豊作を祈って水しぶきを上げる

12月18日未明、白糸熊野神社で五穀豊穡を祈願する「寒みそぎ」が行われました。この日は、約400年続く伝統行事を見ようと、たくさんの人たちが川岸を埋めました。

寒気の流れ込みで、この日の気温は0度。雪が舞う中、太鼓を合図に新米の入った桶を担いだ年男を先頭に、ふんどし姿の男たち、約80人が、みそぎ場（川付川）に走ります。

身を刺す冷たさの中、男たちは「オイサツオイサツ」と声をあげながら円陣を組み、上流で米が研がれるまでの間、時折、大声を出しながら激しく水を掛け合いました。



気温は0度、男たちの体から、湯気が立ち上る

## 糸島市の庁舎を結ぶバスが出発

### 1月4日に「庁舎線」運行スタート

糸島市は、合併に合わせ本庁舎と二丈・志摩庁舎を結ぶ「庁舎線」の運行を1月4日に開始。この日は、朝8時の第1便の出発を前に、志摩庁舎前で運行記念式を開催しました。

式典では、筒井秀来糸島市長職務執行者が「生活路線として、たくさんの方々の市民の利用を願います」とあいさつ。バスは13人乗りで青を基調にし、車体には防犯標語とイラストが描かれ、市民に親しまれるよう工夫されています。

「庁舎線」は、平日12便、土日・祝日6便で三庁舎間を結びます。運賃は1乗車につき大人100円、子ども50円の定額です。



「庁舎線」の出発の前にテープカットを行いました

## 新市の誕生も祝う勇壮な舞

### 高校生も舞う、年越しの夜神楽

1月1日、午前零時過ぎ、福井白山神社で「年越し夜神楽」が奉納されました。五穀豊穡や家内安全などを願う勇壮な福井神楽は、明治20年から始められたといわれています。

長い歴史と伝統の中で、途中、神楽師の老齢化などによる舞手不足で一時中断されていましたが、昭和48年、福井区民が一丸となり、福井神楽保存会が発足しました。

厳寒の中、全24幕のうち4幕が奉納され、初詣での人たちが見守る中、高校2年生の元気いっぱいの舞も登場。5月の第2日曜日には全24幕がお昼から夜にかけて舞われます。



新年を迎えると、神楽が始まった

## 街内の厄を集めて鬼が走る

### 老松神社の伝統行事「追儺祭」

「追儺祭」が1月7日、老松神社で開催され、大人から子どもまで、約70人が鬼に扮し「鬼じゃ、鬼じゃ」と掛け声を上げながら、加布羅橋まで「お潮井取り」に走りました。

これは、厄鬼を追い払い、無病息災を祈るもので、中国の陰陽道の行事を取り入れたといわれています。朱色の鬼の面を着けた厄年の男性を先頭に、鬼たちが街内を走ります。

境内に帰った鬼を、長老たちが「鬼すべ堂」に追い込み、煙でいぶし、罪や災難を払います。境内にはテントが張られ「うそ替え」が行われ、夜遅くまでにぎわっていました。



朱色の厄鬼を先頭に、およそ70人の鬼が続く